

# 風紋

vol.53 2017 / Spring

鳥取大学広報誌 FU-MON



特集1

## 地域に飛び出せ！ 学生たち



「鳥取県内企業見学シャトル便」で  
地元企業の魅力を知る

特集2

とっとりキャンパスライフ2016  
平成28年度 鳥取大学学生生活実態調査報告書

社会  
貢献

子どもの発達に寄り添い、  
教育力の向上を多面的に支援

話題の  
研究

新しい機構とユニークな形でコストダウンを目指す！  
小形風車の開発研究

Student's  
Voice

鳥大学生対談 山陰出身の学生編

学びを  
支える

教育支援・国際交流推進機構  
教育センター 健康スポーツ部門

新任教員  
紹介

農学部

# 経営者と熱く語り合える 「鳥取未来トーク」

今年3月14日、20社を超える県内企業の経営者と鳥取大学・鳥取環境大学の学生11名が一堂に会し、COC+主催セミナー「学生と経営者が語る鳥取未来トーク」が開催された。鳥取県で働くことの魅力や可能性、地方や若者の未来について大いに語り合ってもらい、学生らが地元就職を考えるきっかけにしようという趣旨のものだ。

昨年10月に催された第1弾は、「鳥取の魅力と未来への夢」をテーマに、若手経営者5名が熱いディスカッションを繰り広げた。経営者の本音トークが聞けるとあって会場には約350名が詰めかけ、起業に必要な素養、会社が求める人物像等についての質問も飛び交って、学生にとっては「鳥取で働く自分」をイメージする貴重な機会となったようだ。

▶基調講演を行った、元全日本バレーボール日本代表の山本隆弘氏



▶パネルディスカッションでは充実した意見交換が行われた

▶懇親会で談笑する様子

2回目となる今回は2部構成。まず第1部では、「勝てる組織のチームワーク～チーム力を最大化する方程式」と題して、鳥取市出身の元全日本バレーボール日本代表、山本隆弘氏が基調講演を行った。困難に負けず鳥取から日本代表選手を目指した経緯、仲間と積極的にコミュニケーションを取りチーム力を高めていった実践の話は、若者の手本となる内容であった。続くパネルディスカッションでは、就職に対する不安や展望、地域発展について意見・質問を投げかける学生に対し、「田舎だから技術レベルが低いということはない」「世界を相手に仕事をしている」と、鳥取の底力を感じさせる話が経営者から返された。また、「もっと柔軟性を持って」「起業したいなら、何で利益を得るのか具体的に考えるべき」といった叱咤激励も。学生たちの背筋が伸びたが、第2部の懇親会では一転して和やかムードに。若手経営者は、経営者と学生が活発に言葉を交わす様子に「セミナーの効用は高い。今後もテーマを変えるなどして開催し、地元定着につなげたい」と期待を寄せている。



おき まさひろ  
**沖 正弘**  
地(知)の拠点大学による  
地方創生推進室  
ミドルコーディネーター(東部地区担当)

1981年、山陰合同銀行入行。鳥取県庁支店をはじめ東京支店、本店営業部等各営業店勤務を経て、2000年には国際部大連駐在員事務所長に。その後証券国際部、お客様サービス部等で活躍。16年より現職。銀行員として培ってきた産業界とのパイプを生かし、東部地区大学生と県内企業を「シャトル便」でつなぐ役割を担っている。

けてもらおうという取り組みで、2〜8名程度の少人数で行けるのが特徴。しかも1年生から利用OKと、就活生に限らないのも使い勝手がいい。「就職活動の一環として行う企業訪問よりずっとラフ。県内にどんな企業があるのか、まずは学生たちに知ってもらうことが目的です」と、地(知)の拠点大学による地方創生推進室・東部地区担当の沖正弘ミドルコーディネーターはその意義を語った。

昨年(平成28年)11月から稼働しており、学生らは老舗の製菓会社、斬新なアイデアでものづくりをする企業、世界から注目される精密機器工場、農産加工品で鳥取の美味を発信する会社など魅力的

な企業に出かけて、地元のパワーを実感しているという。同推進室では「シャトル便」を広報する学生サポーターを募り、クチコミでその面白さを広めたり、見学レポートをWebサイトに掲載するなどしてPRにも努めている。

事業の最終目標は、学生らが県内企業に就職し、地域活性化の一翼を担う社会人に成長すること。しかし決してそれを強要するものではなく、「経営者の哲学や企業の現場を実際に感じ取ることでキャリア形成の糧にしてくれればいい」と同推進室の若良二特命教授。「シャトル便」を活用して地域に飛び出し、成長する学生を楽しみにしている。



シャトル便の申込みは  
WEBサイトをチェック!

<http://www.coc.tottori-u.ac.jp/3482>

最新の  
企業見学を  
ご紹介!  
◀◀  
Next Page



業務内容

Unityを利用したゲームやスマートフォン向けアプリの制作、コワーキングスペース「ハニカム」の運営。



業務内容

部品設計や組立から検査まで、一貫した生産体制でものづくりを行うトータルエンジニアリング企業。



わか りょうじ  
**若 良二** 特命教授  
地(知)の拠点大学による  
地方創生推進室  
シニアコーディネーター

1972年、鳥取大学工学専攻機械工学専攻修了。工学博士(名古屋大学)。72年より鳥取大学工学部、教育地域科学部(現・地域学部)教授を経て、2003年同大学留学生センター(現・国際交流センター)教授。13年同大学退職後、放送大学鳥取学習センター所長を経て、16年より現職。県内高等教育機関・行政・民間企業等と連携を図りながら学生の地元定着促進に努め、地方創生を願う。

鳥取大学は、地(知)の拠点大学として地域社会にどのような貢献ができるのかその方策をずっと模索し続けている。これまで、自治体やNPO等と連携し、地域を志向した教育研究を進めて社会貢献に生かしてきた。しかし、少子高齢化、都市部との経済格差など、地域社会が抱える問題はさらに深刻化している。

そこで鳥大では、これまでとは違う角度からの地域貢献事業に取り組み始めた。それが「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(以下、COC+)だ。文部

科学省の採択を受けた「学生と社会の相互交流による人材育成・地元定着促進プログラム」の実施を掲げ、県内の高等教育機関である鳥取環境大学、鳥取短期大学、鳥取看護大学、米子工業高等専門学校と連携して、人材の育成、魅力ある就業場所の創出・開拓を行い、地方創生に資する若者の地域集積を目指している。

**空きコマを利用して企業を見学**

COC+の中で、今最も力を注いでいる事業が「鳥取県内企業見学シャトル便」(以下、「シャトル便」)だ。授業の空き時間を利用して、学生らに気軽に企業見学へ出か

「鳥取県内企業見学シャトル便」で  
地元企業の魅力を知る

# 地域に飛び出せ! 学生たち

鳥取大学の学生は約7割が県外出身者だが、そのうち鳥取県内の企業に就職する学生は毎年1割にも満たない。都市部に働き口を求めたり自分の故郷に戻るなどして、ほとんどがこの地を離れていくのである。せっかく鳥取と縁あった学生たちを地元に戻付かせたい。今、その望みをのせて発動しているのが「鳥取県内企業見学シャトル便」の取り組みだ。

## これまでに訪問した企業



業務内容

鳥取の地域ブランド創出を目指した商品の企画開発や、古民家カフェ「大榎庵」の運営などを行う。



業務内容

「梨ケーキ」や「大風呂敷」をはじめとする山陰の伝統菓名菓、素材や品質にこだわり製造・販売。



業務内容

各種高圧ガス容器、機械部品などの製造販売や、バルク貯槽メンテナンスサービスを行う。



業務内容

鍛造から機械加工までの一貫生産体制で、各種自動車・トラック・工作機械などの鍛造部品を生産。

参加学生による  
シャトル便レポート!

鳥大出身の先輩と  
本音のトークタイム

「なぜこの会社に?」「残業は?」などを思い切って質問。工学部にガスを搬入していたこの会社が在学中から気になっていたそうです。仕事では、緊急呼び出しに対応する夜間当番もあるのだと教えていただきました。



農学部  
生物資源環境学科2年  
にしおか だいほ  
西岡 大穂さん

鳥取支店に移動し、  
働く現場を見学

鳥取支店には、県内で唯一ガスの充填作業ができる設備があるのだとか。高圧ガスを扱う作業は危険が伴うので、安全管理を徹底しているそうです。必要な資格は入社・配属されてから取得します。



地域学部  
地域政策学科2年  
たかのぶ さやか  
高信 彩也香さん

本社で会社概要や  
経営理念を伺う

森下社長さんが丁寧に説明。石油・ガス・建材・観光等生活に欠かせない事業内容で、グループ企業も多数。地域に貢献している企業なんだと分かりました。「社員は宝」の言葉にも感動!

工学部  
電気情報系学科3年  
つだ しょうご  
津田 将吾さん

村中さん

鳥大OBの大久保さんがガスポンペを扱う作業を実演。ポンペの重さは約230kgあり、持ち上げられないため、手で支えながら斜めに傾け、クルクル回して移動させる。



鳥取支店には、県内で唯一ガスの充填作業ができる設備があるのだとか。高圧ガスを扱う作業は危険が伴うので、安全管理を徹底しているそうです。必要な資格は入社・配属されてから取得します。

現場に身が引き締まる。

案内役は、高圧ガス課・係長の村中達也さん。産業用・医療用ガスだけで約500社との取引があると説明。溶接など金属加工や、生命維持・手術等に欠かせないガスを扱う仕事は「地場産業を支えている」という実感があがり、やりがいを感じます」と語った。実務を目の当たりにして、学生も「どんな資格が必要?」「出荷先は?」と積極的に質問していた。その後さらに、同支店に勤務する鳥大OBとの座談会も実現。LPガス課・高田祐希さん、高圧ガス課・大久保泰志さんは共に工学部出身。年令の近い先輩の話は、より身近に感じられたようだ。

生質問にもざつぱらんに答えてくれた。こうして経営者から直接話が聞けるのは、「シャトル便」ならではのメリットだ。「いろんな挑戦をしながら、広い分野で地域貢献している会社だと分かりました」という高信さんの感想からも満足度がうかがえた。

イキイキ働く社員さんに感動!

企業からのメッセージ

地元企業の良さを知る上で、「シャトル便」の取り組みはとても有効だと思います。逆に私たちも、今の大学生が社会や企業にどんな思いを持っているのか話を聞くことができたし、その積極的な姿勢・考えに感心しました。会社説明の中で、「一流は道を創る」という話をしました。これからの世の中を変えるのは若者です。自分で道を切り拓くことができる、一流の人間になってほしいと願っています。

もりした あきお  
森下 明男 日ノ丸産業株式会社  
代表取締役社長



「顧客の満足が自身の働きがいにつながる」という森下社長さんの言葉どおり、やりがいを持って仕事に励む先輩を見て、経営者と社員の考えに食い違いがない素晴らしい会社だと感じました。学生のそんな感想は、この体験が必ず彼らの将来に生きることを確信させた。

企業見学は  
将来に生きる貴重な体験

こうして、3時間以上に及ぶ充実の「シャトル便」は終了。企業のトップと現場で働く社員、両者の話をこれだけ詳しく、しかも一度に聞ける機会はそうそうない。

「日ノ丸産業」という名前をよく耳にするけど、一体どんな会社なの? 文系の私でも就職できるのかな? 地域学部・高信彩也香さんはそんな疑問を持ち、企業見学がしたいと申し出た。彼女の言葉に農学部・西岡大穂さん、工学部・津田将吾さんも賛同。それならばと、沖ミドルコーデイネーターは早速先方へ連絡を取り、「シャトル便」を手配した。こうして3人は、まだ冬の肌寒さが残る3月8日、日ノ丸産業株式会社の企業見学へと出かけたのだ。

超お得!!  
本社の社長さんと直接面談

鳥取駅前本社ビルを構える日ノ丸産業株式会社は、鳥取県内全域・松江・兵庫・東北部に支店・営業店を持ち、ガソリンや灯油、家庭用LPガスや産業用・医療用ガスの販売等地域に密着した事業を展開する、今年創業65年の大手企業だ。ビル内へ入ると、総務部の人事担当者と森下明男代表取締役社長が迎え出てくれた。気さくな森下社長は、パワーポイントを使って自ら、会社概要や事業内容、経営理念、新プロジェクトなどを説明。「高齢者に特化した事業は考えている?」「いい社会人ってどんな人?」といった学生の質問にもざつぱららんに答えてくれた。こうして経営者から直接話が聞けるのは、「シャトル便」ならではのメリットだ。「いろんな挑戦をしながら、広い分野で地域貢献している会社だと分かりました」という高信さんの感想からも満足度がうかがえた。



「見たい、知りたい!」  
気になる  
県内企業へ  
「シャトル便」でGO!  
日ノ丸産業株式会社

業務内容 石油・ガス・太陽光エネルギー・リフォーム・建材・観光事業など

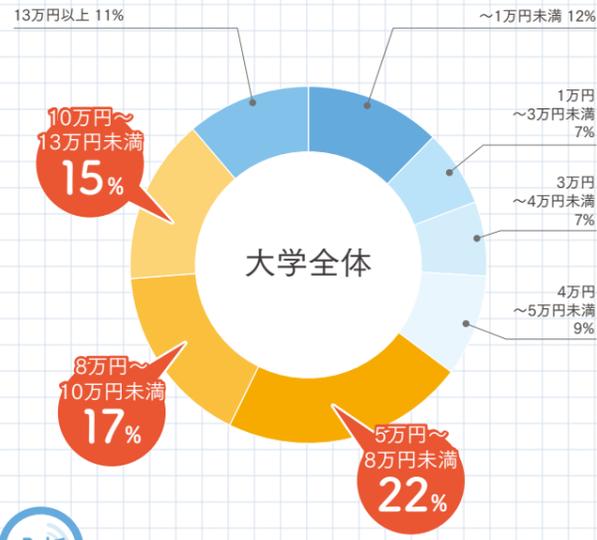
平成28年度  
鳥取大学学生生活実態調査報告書

# とっとりキャンパスライフ 2016



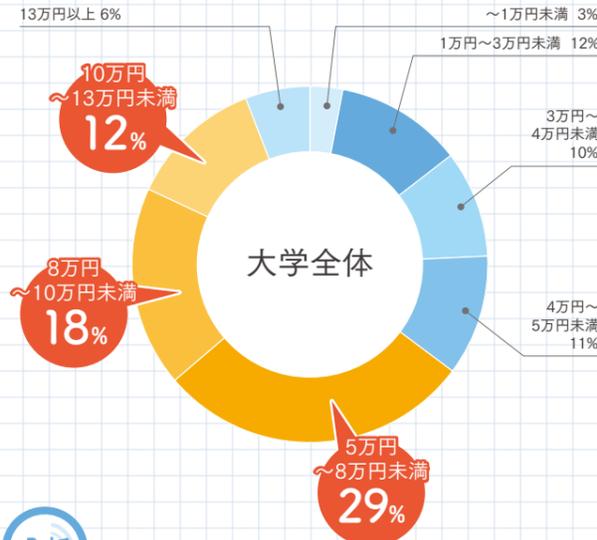
本学学生の実態を把握し、学生の教育及び福利厚生改善並びに充実のための基礎資料を得ることを目的として、平成28年9月12日(月)から10月21日(金)に「学生生活実態調査」を実施しました。その調査結果をまとめた報告書「とっとりキャンパスライフ2016」から、「風紋出張版」として特に関心の高い設問を抜粋し、掲載します。より詳しい調査結果は大学HPに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

## 01 この1年間の1カ月の平均収入



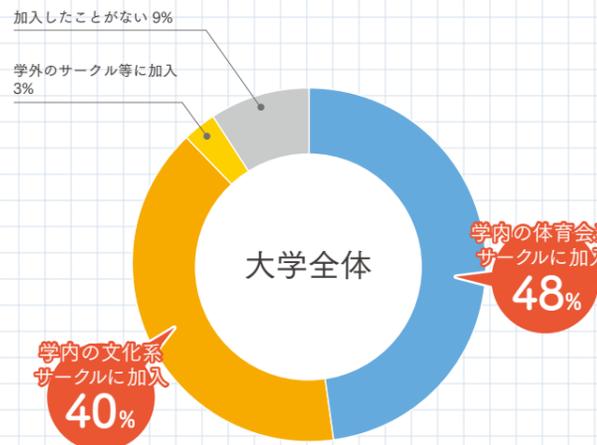
**分析**  
1カ月の平均収入は「5万円～8万円」が22%で前回の調査時の25%に比べるとやや割合が低下したものの他の区分と比べるとかなり多くなっています。また5万円以上の割合は合計65%と、前回の62%と比べるとやや割合が上昇しています。

## 02 この1年間の1カ月の平均支出



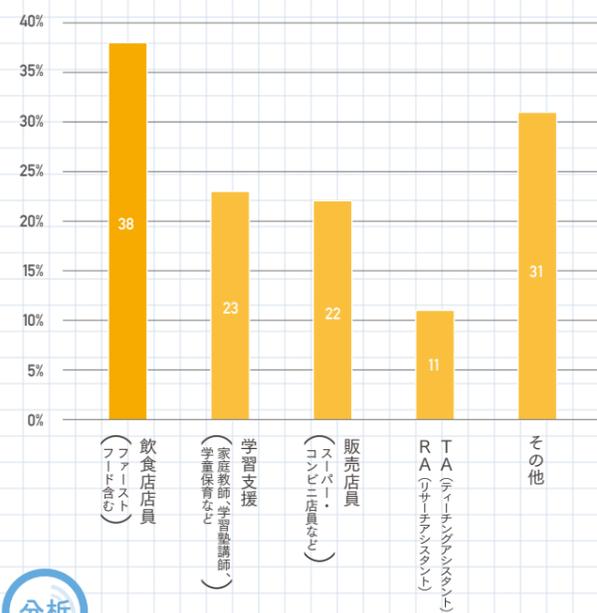
**分析**  
支出合計は「5万円～8万円未満」が29% (前回29%) で最も多く、次に「8万円～10万円未満」が18% (前回13%)、「10万円以上」が18% (前回13%) になっています。5万円未満が36% (前回45%) と減少していることから、前回調査に比べて支出が増えていることが示唆されます。

## 03 サークルへの加入状況



**分析**  
「加入したことがない」学生は、11年前の調査では約15%でしたが、徐々に減少し、今回初の1桁台(9%)となりました。学生生活の中で、年々サークル活動の意義や役割が大きくなっていることがうかがえます。サークルに加入している(又は加入したことがある)学生のうち、88%が学内のサークルに加入と回答しています。

## 04 アルバイトで経験した主な職種



**分析**  
アルバイトの種類は「飲食店店員」が38%と最も多く、「学習支援」や「販売店員」も2割程度見られました。TAやRAとして大学の教育・研究を手伝って収入を得ている学生も1割ほどいます。

### 学生生活実態調査とは?

隔年で学生の修学経費、生活環境、学習・課外活動状況、就職、健康管理などに関する実態や意識に関するアンケート調査を行っています。大学に対する要望事項も調査し、より良いキャンパスライフを提供するための検討資料としています。

**これまでの改善点**  
体育施設へのLAN整備、医学部食堂の改修、図書館の開館時間の延長、就職支援バスの増便、授業料免除可能額の増額、体育・課外活動施設の改修など、様々な事項について、本調査結果を基に改善しています。

**より詳しい調査結果は大学HPに掲載しております。**

Home > キャンパスライフ > とっとりキャンパスライフ2016(学生生活実態調査報告書)

鳥取大学 検索

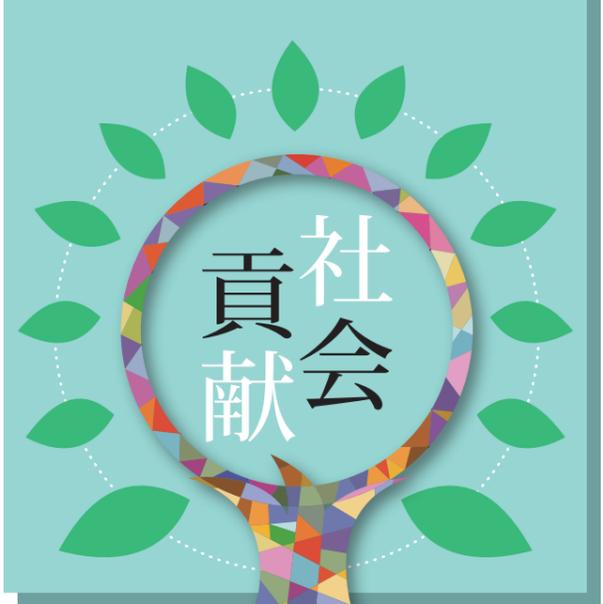
### 調査・集計・編集の概要

- 調査の対象**  
平成28年9月1日現在に在籍する学部と大学院学生を対象とした。ただし、休学者、外国人留学生、連合獣医学研究科及び連合農学研究科他大学配置学生は除いた。
- 調査の方法**  
学生生活支援委員会学生生活実態調査専門委員会が、学部等の協力のもとWebシステムにより調査した。
- 集計の方法**  
所属、入学年度等の基本項目により、設問毎に統計的にデータの集計を行った。
- 集計の方法**
  - 調査データに基づき作成した各種グラフを基本に、学生生活実態調査専門委員会が分析を行った。
  - 構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない。

**調査に協力してくれた学生**

学部・研究科	回収率(%)	対象者数(人)
工学研究科	37.6	376
農学研究科	11.7	117
連合農学研究科	1.2	12
医学系研究科	27.3	273
工学部	26.3	1,959
農学部	52.2	1,025
地域学研究科	22.0	50
医学部	61.4	1,309
地域学部	8.4	834
大学全体	40.2	5,955

**調査表の回収状況**



こばやし かつとし  
小林 勝年 教授

地域学部地域学科人間形成コース

略歴	専門	趣味
1984年 兵庫教育大学大学院学校教育研究科修了	福祉心理学/臨床発達心理学/教育臨床心理学	演劇/映画/フットボール/短歌
1985年 神戸市役所民生局心身障害福祉室 育成課 児童指導員		
1993年 京都大学教育学部教育指導講座 研修員		
2000年 稚内北星学園大学情報メディア学部 助教授		
2002年 鳥取大学教育地域科学部附属教育 実践総合センター 助教授		



# 子どもの発達に寄り添い 教育力の向上を 多面的に支援

いじめや不登校、発達障害など、子どもが成長していく過程では公教育や家庭教育において、さまざまな問題に直面することがあります。私たちは「教え込む」のではなく「発達のアプローチ」をキーワードに、研究成果を踏まえた教育プログラムの開発や教師のスキルアップを支援しています。

## 特色ある3つのセクションで構成

鳥取大学地域学部附属子どもの発達・学習研究センターは3年前(平成26年)に発足しました。主に本大学の附属学校部(小・中学校)などと協働して、幼児期から学童・思春期まで子どもたちの連続した「育ち」や「学び」に関する研究をしています。育ち、それだけではありません。「子育て」や「教育」の領域にとどまらず、広く地域社会や医学的な知見を含めた大学内外の学際的な連携をもつて、将来に向かう子どもたちももっている可能性に触れ、発達の研究・考察を基盤とした教

育サポートの広場をつくっていくと模索しています。

当センターには、主に教科学習における実践的な研究を行う「教育実践部門」、医学部や工学部と連携した「認知・脳科学部門」、さらにこれらの活動を地域に生かす「こころの地域ネットワーク支援室」の3つのセクションを設けています。

どちらかといえば研究に重点を置いています。前段として、やはり子どもさんや、それを取り巻く教育、家庭(社会)環境などの実情をしっかりと踏まえておく必要があります。学校で不登校やいじめがあったり、学習障害(LD等)に悩ん

## コホート研究を通じて蓄積した 先進的な調査データを分析

当センターは発足以前より、さまざまな試行・実践的な取り組みがありました。そのひとつに平成16年から5年間にわたる鳥取市において実施した5歳(就学前)の子どもの対象としたコホート研究(※1)(科学技術振興機構社会技術研究システ

## 子どもの「学び体験」を 時間の経過とともに考える

学校での問題に「アカデミック・スキル(読み、書き、計算)などの学習能力」のことがありますが、学業不振が不登校につながることもあり、これを予防するためにRTIモデル(※2)に基づいた鳥取大学発の「T式ひらがな音読支援」に取り組んでいます。鳥取市全45小学校の通常学級および特別支援学級に在籍する小学1年生を対象に、音読検査の上での指導モデルを継続的に提供・実施しています。このような取り組みから、さまざま

課題や新しい知見が得られてきています。

一方で、いじめなど児童・生徒の問題行動と子どもの発達との関係での研究情報や問題意識を共有するために脳科学、精神医学、心理学等の医学系の研究者を中心とした全国的な啓発活動「子どもみんなプロジェクト(文部科学省・いじめ対策等生徒指導推進事業)」を大阪大学など全国9大学と連携して展開し、研究発表を行っています。

また、当センターは「LD等専門員養成研修プログラム(年間300時間の履修)」を開発しており、特別支援学校をはじめとする発達障害のある子どもさんへ

の教育支援・指導を担う専門的な人材養成のコーディネイトもサポートしています。

子どもさんが「発達していく」「成長していく」という観点には、教育現場もご家庭でも「学び」を周囲の人たちと共有する時間の経過とともに考えていくことの大切さが意味をもち、理解されることと思えます。不登校のことひとつを見て「管理と対策」ばかりに目を奪われるのではなく、また子どもさんに「教え込む」のでもありません。子どもさんたちの「学び体験」を時間の流れと推移にあわせて支援していくことが必要ですね。

その結果と推移を考察し、資料として福祉や教育にたずさわる方々に報告してきました。このコホート研究は、国内でも草分け的な取り組みだと思われています。その後も学童期、思春期の児童・生徒を対象としたコホート研究を進めていくことが必要です。

子どもの発達に関しては、たとえば教育学や社会学、医学的な面からのそれぞれのアプローチは欠かせませんが、それらの専門的な面だけから追究しても理解が及ばない側面があります。専門的な各分野でのアプローチを縦の線とすると、それらを横断的につなぎ合わせて考えてみることも大切になってきます。ですから当センターは、各セクションをつないで先生方の知見を交わしながら社会にある子育て・教育と研究者をつなぐ「プラットフォーム」のような場になっていくことを考えています。

子どもと先生を支える、全員参加の『子どもみんなプロジェクト』

子どもみんなプロジェクトの組織図

第2回 子どもみんなプロジェクト in 鳥取  
「脳科学・心算・読解等の最新知見を学校現場に生かす」  
2016年12月10日(土) 10:00-16:00  
鳥取大学地域学部5階 5160教室

▲子どもみんなプロジェクト in 鳥取の様子とそのチラシ



(※1)コホート研究  
特定の地域や集団に属する人々を対象に、その人たちの状態や置かれた環境などを一定期間調査する研究

(※2)RTIモデル  
学習障害などの疑いが見られた段階で早期に学習指導を行い、その反応に相応して診断していくプログラム



# 話題の研究

はら ゆたか  
**原 豊** 准教授  
 工学研究科機械宇宙工学専攻  
 応用数理工学講座

**略歴**  
 1987年 名古屋大学工学部電子機械工学科卒  
 1992年 同大学大学院工学研究科博士課程単位取得満期退学  
 1992年 同大学工学部電子機械工学科 助手  
 1993年 博士(工学)(名古屋大学)  
 1997年 鳥取大学工学部応用数理工学科 助教授

**専門** 風車工学 / 流体工学  
**趣味** NHK大河ドラマ



# 新しい機構とユニークな形で コストダウンを目指す！ 小形風車の開発研究



図1 バタフライ風車の風洞実験機  
 (ロータ最大直径D=40cm)

ちよつと変わった形の「バタフライ風車」と呼んでいる垂直軸風車を考案し、強風時には翼を傾斜させて空力ブレイキとす  
 新機構を付けた風車を開発中です。通常ならば風車を停止すべき強風状態でも回転を続けることで、発電単価を下げる  
 ことが期待できます。

## 最初は形から

大形風力発電機のはほとんどは3枚翼のプロペラ型水平軸風車です。しかしながら、風の乱れが大きな地面近くに設置されることの多い小形風車では、地面に対して回転軸が垂直な垂直軸風車も数多く開発されています。数年前に小形風車の低コスト化を研究のメインテーマとしたときに、特性が風向に依存せず構造も簡単になることから注目したのが垂直軸風車でした。低コスト化のために部品点数を減らす

## 材料を替えて— 形も少し変わったけれど…

図1の実験機は、性能面で優れるように外向きに反った翼断面であるため、FRP(繊維強化プラスチック)で翼を作りました。しかし、本来の目的であった低コスト化においては、現状のFRPによる翼の製造はコスト的に問題です。そこで企業の協力を得て取り組んだものが、図2に示すアルミで作られた翼を持つバタフライ風車です。翼はアルミの押出と曲

げ加工で作られているため、大量生産に向き低コスト化に繋がります。ただし、加工上の制限から、翼断面形状は反りのない対称な翼型とし、風車ロータ形状も図2のように円形に近いものとなりました。しかし、バタフライ風車の本質的な特徴は継承しています。

## 新機構を付けて、さらなる展開へ

アルミ押出翼の採用で翼の低コスト化に見通しができましたが、それだけでは不十分です。通常風車は装置の破損を避けるため、強風時には回転を止める必要がありますが、強風の中で回転数の増加を抑えて発電を持続できれば、発電単価の減少になります。また、最大電力を抑えることで発電機も小さくできるためコスト削減になります。強風時の高速回転

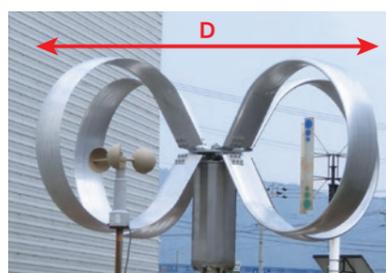


図2 アルミ円形翼バタフライ風車(ロータ最大直径D=2m)

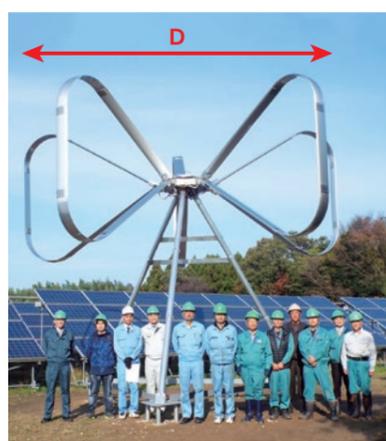


図3 アルミ三角翼バタフライ風車の実証機  
 (ロータ最大直径D=7m)



図4 過回転抑制機構  
 (赤色の点線内が1つのユニットと同調用円盤)

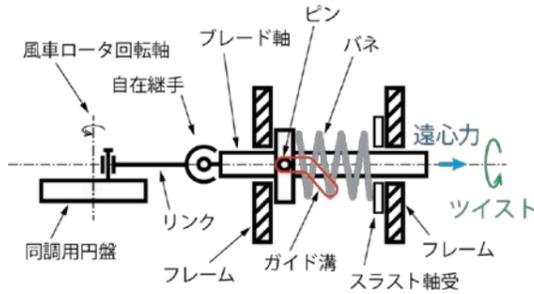


図5 過回転抑制機構ユニットの模式図



図6 過回転抑制機構が働いて翼が傾斜(ツイスト)し、風車にブレイキがかかって回転が止まった状態

に伴う翼に働く大きな遠心力を利用して、自動的に垂直軸風車の翼を傾斜させる機構を作りました。図3は新機構を取付けた直径7mのバタフライ風車の実証機です。図4は風車中央部に取付ける前の過回転抑制機構の内部写真ですが、赤枠内が1つの翼を取付ける機構ユニットです。図5は機構ユニットの模式図ですが、翼(ブレード)を取付けるブレード軸が、遠心力によってバネを押しながら図の右方向にスライドします。そのときにピンがガイド溝に沿って動き、ある回転数になると翼が傾斜(ツイスト)して空力ブレイキとなり、回転数が下がればバネの力で元の状態に戻る仕組みとなっています。なお、実証機は5枚の三角翼を持ちますが、翼の動きをそろえるために各ユニットのブレード軸は同調用円盤に結合されています。

本研究は平成27年度の鳥取県産学共同事業化プロジェクト支援事業として採択された、県内外の企業4社と本学が共同体を組んで実施中の2年間のプロジェクトです。なお、大枠としては鳥取大学国際乾燥地研究教育機構のプロジェクトの一環でもあり、将来的には世界の乾燥地における活用も視野に入れています。

## まだ道半ば…、でも失敗も必要

現状では風車に発電機(5kW)は取付けていませんが、フリー回転状態(無負荷状態)における風車挙動の計測実験を実施し、2割程度の低風速から風車が回転することを確認しています。しかし、強

風が吹いた平成29年1月14日に翼が大きく傾斜した状態(図6参照)で風車は停止してしまいました。ガイド溝の設計に問題があったことが原因でしたが、溝形状の修正で改善は可能と考えています。実験としては失敗でしたが、翼が傾斜してブレイキとして動作することや急激な傾斜動作においても翼が破損しないことが確認できたことは貴重な経験だったと考えています。今後は発電機や制御盤を取付けて、予想通りの発電量が得られることを確認していく予定です。実用化までには多くのハードルがありますが、近い将来に鳥取発の安価な小形風力発電システムの実現を目指しています。

# Student's Voice

鳥大学生対談

山陰出身の学生編

## 鳥大には成長のチャンスがたくさんある！

都市部へ進学する仲間が多い中、ボクらが山陰に残った理由

▼山代 医学部であればどの大学でもこだわりはなかったんだけど、決め手になったのは、鳥大でがんを治す薬の研究をしているという新聞記事を見たから。「鳥大にはすごい先生がいるんだな」と思ったんですよ。

▼木下 私はあまり人混みが好きじゃなくて、東京とか都会の大学に行きたいとは思わなかった。海外旅行が好きなので、地元にはたばか資金を貯めやすいかなと思っ

境が違うなど。

▼山代 米子キャンパスは医学部だけだから、他学部と交流できないのが寂しい。でも、だからといって楽しくないわけじゃなく、地域に出てみると面白い人や親切な人がいっぱいいるので、大学周辺は恵まれているなあと思っています。

地域とのつながりが強い鳥大  
他にはない学修環境を生かして

▼田中 工学部電気情報系学科では、現場



て、鳥取に残ったんです。

▼田中 そうなんだ。僕は、最初のうちは県外に出たいと考えていたなあ。電気系学科の大学は県外にもたくさんあるから。でも、いろいろ考えるうちに鳥取でも同じかなと思えてきて。地元に残ると決めたから、家族は喜んでいましたね。

▼和田守 僕の場合は、後期日程で受ける大学はどこにしようかと悩んでいたとき、高校の先生が「鳥大はどう？」と勧めてくれたから。その当時は深く考えなくて決めたけど、今は鳥大でよかったと思っています。

▼木下 私も、入学してから「鳥大って案外へ出かけて調査研究するような機会はありませんけど、鳥大ならではの学びやメリットを感じる場面が皆さんはありますか？

▼和田守 周辺に農場がたくさんあり、実習の環境には恵まれていますね。地元の米農家さんに協力していただき研究を進めているんですが、実践的なことができるのは本当にありがたい。

▼木下 地域学部もフィールドワークが多いので、地域とのかかわりは深いです。高校時代に受けていた英語教育の構築に鳥大がかわっていたようで、自分が学んできた教育を、今度は教える側に立って勉強できる、そこがリンクしているのは地元出身ならではの利点ですね。

▼山代 医学部的には、高齢化が進んでいる鳥取県だからこそ最先端の医学が学べていることがメリット。約10年後には団塊の世代が後期高齢者となり、超高齢化社会の中で今の医療制度は成り立つのかと危惧されています。でもそれは、鳥取では「未来」ではなく「現在」の問題。時代に先んじて日本の医療が抱える課題に取り組んでいるんですよ。

絶景・グルメ・アクティビティ  
どこにも負けない魅力がある！

▼山代 鳥取といえばやっぱり海の幸。東京や大阪から来た友達に「魚がすごく旨

すごいじゃん」と思いました(笑)。留学プログラムが整っているし、地域学部の校舎は意外ときれいだし。

▼和田守 意外とって(笑)。僕も留学プログラムはいつばいあるなと思いました。実際、春休みにアメリカのアーカンソー大学へ英語研修に行ったし、メキシコ海外実践教育プログラムにも参加しました。とても楽しかったし、いい経験になりました。

▼田中 鳥大は地元より関西から来た人のほうが多いから、ある意味、鳥取にいなから鳥取じゃないような、不思議な感覚がありますね。やっぱり大学って小中高とは環

い！もう鳥取以外の魚は食べられないというくらい大絶賛しています。

▼田中 川魚もおいしいよね。毎年8月に鳥取市河原町で開催される「あゆ祭」では鮎のつかみ取りイベントがあるんだけど、すごく盛り上がります。

▼木下 「鳥取しゃんしゃん祭」も毎年すごい人出だね。

▼山代 そうそう、「鳥取のどこにこんな人がいるんだ？」というくらい(笑)。

▼和田守 僕の故郷は出雲市斐川町で、観光地として「宍道湖」や「出雲大社」が有名なんだけど、僕のオススメは白亜の灯台がそびえる「出雲日御碕灯台」。灯台も海岸線もすごくきれいなんです。行ったことある？

▼山代 ありますよ！灯台周辺のゴツゴツした岩の感じがすごく好きです。

▼和田守 海に岩壁、灯台、まるでサスペンスドラマの世界だね(笑)。

胸に秘めたデッカイ夢を叶えたい  
山陰から無限に広がる可能性

▼和田守 僕は大学院進学を考えています。「精密農業」の研究をしていて、例えば農



大学図書館で寛ぐのが好きです！



鳥取県鳥取市出身  
鳥取県立鳥取西高等学校卒

地域学部  
地域教育学科4年  
きのした はるか  
木下 遥さん

一眼レフカメラ  
始めました！



鳥取県鳥取市出身  
鳥取県立鳥取西高等学校卒

医学部  
医学科4年  
やましろ かおる  
山代 薫さん

バンドでギターを  
やっています！



鳥取県鳥取市出身  
鳥取県立鳥取西高等学校卒

工学部  
電気情報系学科3年  
たなか しょうと  
田中 翔人さん

手挽きして入れる  
コーヒーが好き！



鳥根県出雲市出身  
鳥根県立平田高等学校卒

農学部  
生物資源環境学科4年  
やだもり てつや  
和田守 哲也さん



家が持つ長年の経験・知識をデータ化してトラクターにその機能を搭載、畑を耕す深さや散布する肥料の量を自動制御して、高齢の農家さんや若い就農者を手助けするといったものです。

▼田中 すごい、工学部みたいですね！僕も大学院への進学を模索中。Aや半導体なんかの研究がきたらなあ。

▼木下 私は普通に卒業するつもり。卒業後は、カナダへワーキング・ホリデーに行く予定なんです。その経験を生かして将来は外資系とか、旅行・ホテル関係といった英語を使う仕事がしたい。

▼山代 僕は医師になったら「求められるところで働きたい」と思っているんだけど、「2025年問題」以降の日本は高齢者も生産年齢人口も減り、医師が余る時代がくるんじゃないかと。膨大な情報量を保有できるAIに診療の仕事を取ってかわられる可能性もあります。今医学部で一生懸命勉強している学生の中でどれだけの人が残っていけるのかと考えたら、将来のビジョンを持つのが難しいなと思いますね。そういった時代の流れの中では様々な知識や価値観が必要になると思うので、今、国際保健や家庭医療についても積極的に学んでいるところです。

▼木下 そこまで考えているなんて、すごいね。

▼山代 すごいっしょ。

▼一同 (笑)。

# 新任教員紹介 農学部

MEET OUR NEW TEACHERS

平成28年4月から農学部生命環境農学科生物生産システム工学分野に着任しました森本英嗣です。

専門は農業情報学分野で、特にスマート農業という新しい研究分野の開拓をしています。研究背景には、農家は減少傾向にあり、手放した農地を地域の担い手が引き継いで耕作しているところが多く、担い手により農村環境を維持されている現状があります。そんな現状に対して最先端の技術革新で解決に挑んでいるのが「スマート農業」です。トラクタや田植機などの農業機械に装着したセンサでデータを集め、農家の培ったノウハウは「スマート農業群」を継続使用するだけでビッグデータの構築が担保されます。将来的に生育情報や気象情報、農家の農機

## スマート農機群で農業版 Society 5.0 をリードする



農学部生命環境農学科

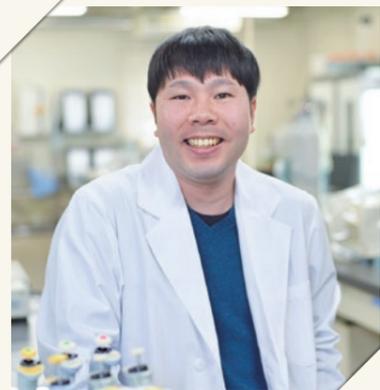
もりもと えいじ  
**森本 英嗣** 准教授

略歴	2003年 京都大学大学院農学研究科博士課程後期修了 博士(農学)
2003年 東京農工大学農学部21世紀COE 特別研究員	2004年 石川県農林総合研究センター 農業試験場 専門研究員
2016年 鳥取大学農学部 准教授	
専門	農業情報工学/農業機械学/リモートセンシング
趣味	ロードバイク

操縦のくせなどから、おすすめ作業プランを提案してくれるアプリが世の中に無数に存在するセンシングデータと連携して活用できるようにすれば、より便利で快適な農業生産のためのアイデアが一気にあふれ出すでしょう。

研究室は既にスマート田植機の普及に成功し、農業生産での「イノベーション」を起こしています。今後は農業版 Society 5.0\*の主役となる情報プラットフォームの開発をプロ農家・アライアンス企業・国の研究機関とともに「現場主義」で進めます。そんなオシャレな研究室のドアをノックしてみてください。

\*狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続くような新たな社会を生み出す変革を科学技術イノベーションが先導していく、という意味を持つ  
(第5期科学技術基本計画(答申)の概要より)



農学部生命環境農学科

takekura yoshihiro  
**竹村 圭弘** 講師

略歴	2012年 鳥取大学大学院連合農学研究科修士(農学)
2012年 鳥取大学農学部 プロジェクト研究員	2016年 鳥取大学農学部 講師
専門	園芸生産学
趣味	旅行/ドライブ

## 温暖化に対応できる梨栽培

平成28年4月1日付けで農学部の講師に着任致しました竹村圭弘と申します。私自身も本学の卒業生であり、連合農学研究科にて博士の学位を得た後、プロジェクト研究員を経て現在に至っております。

専門は「園芸生産学」という分野で、果樹・野菜・花などの園芸品目を研究対象としており、生育に関わる諸形質についてのメカニズムを解明し、得られた知見を栽培・生産・育種に繋げる研究を展開しています。現在は、地球温暖化に対応できるニホンナシ品種の育成に焦点を当て研究を進めています。ニホンナシをはじめとする落葉果樹の芽は、冬季に一定量の低温に遭遇しなければ翌春に発芽することが出来ません。この現象は「自発休眠」と呼ばれており、近年の温暖化の影響で世界の

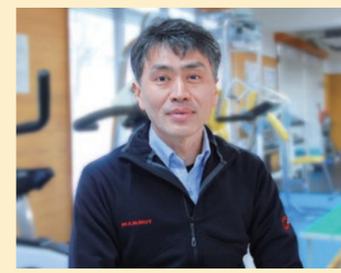
現代の私たちは、食糧問題や地球環境問題などの多くの問題を抱えています。これらの問題に対応するための生産技術や新品種の開発が農学の分野では重要視されています。今後も、「国際的で独創性の高い研究成果を産み出す」ということを意識すると同時に、学ぶことの楽しさや発見の喜びを伝えてゆけるよう自己研鑽に励んで研究教育の能力を高める所存です。

# 学びを支える

SUPPORT FOR LEARNING

## 教育支援・国際交流推進機構 教育センター 健康スポーツ部門

当部門は、全学共通教育の「健康スポーツ科目」を通して学生の体力や社会性を育み、健康的な生活が送れるようサポートしています。



教育支援・国際交流推進機構 教育センター 健康スポーツ部門

せとくにひろ  
**瀬戸 邦弘** 准教授

略歴	1997年 早稲田大学人間科学部スポーツ科学科卒業
2005年 同大学大学院博士後期課程人間科学科満期退学	2007年 博士(人間科学)
2010年 英国王立人類学研究所 フェロー	2011年 上智大学文学部 常勤嘱託講師
2016年 現職	
専門	スポーツ人類学
趣味	スポーツ観戦

## 生活・運動習慣の改善を支援

健康スポーツ部門では、主に全学共通教育における健康スポーツ科学実技の企画・運営に取り組んでいます。ランニングや球技、ダンス、アクアスポーツ、スキーや野外キャンプといった実技を通して運動・スポーツ文化に親しみ、体力の維持・増進を図るとともに、明るく健康な学生生活を送るための能力や知識を養うことを目的としています。

大学生は、長い人生の中で最も意欲的に体力に満ちた年代です。しかし同時に、多くの学生が実家を離れてひとり暮らしを始め、朝寝坊や夜更かしが増えたり、欠食や飲酒により食生活が乱れたり、運動の機会が極端に少なくなるなど、今までの規則正しい生活が一転して失われる時期でもあります。そういった中、学生たちに体調管理の大切さを認識させながら、適度な運動の機会を定期的に提供す

## スポーツの力で社会性も習得する

スポーツ実技の授業は、学生のコミュニケーション能力の育成や、友人づくりの場としての役割も担っています。座学の講義はおおよそ私語禁止ですが、この科目では違います。ゲームを円滑に進めるためには同じチームになった仲間や対戦する相手とコミュニケーションを取ることが必要で、スポーツを楽しむながら自然と社会性を身に付けることができます。また、多くの学生が1、2年次にこの科目を受講するので、入学間もない彼らにとっては他の学生たちと知り合う良い機会となっています。その他、課外運動部の運営協力、トレーニングルームの適切な使用方法の指導も行っており、学生の自主性を尊重しつつ、在学中のスポーツ活動が安全かつ充実したものとなるようサポートしています。

## 就活日記

いしはら ちかお  
**石原 愛朗**さん 工学部応用数理工学科 2017年3月卒業

就職先: 日東電工株式会社



3年生の2月上旬、キャリアセンターに行き、「何をしたらよいですか?」と質問したのが私の就活の始まりでした。キャリアセンターではエントリーシートの添削や面接練習を丁寧にしてもらいました。

合同・個別企業説明会には積極的に参加し、特定の業界に固執せず、幅広い業界の話や共通点や相違点を探ることができ、志望する企業の特徴を深く研究することができました。また、私は県外で就活をすることが多く、移動時間が1日に数時間あったので、その時間にSPIの勉強や新聞を読んだりして、時間を有効的に活用できるように心がけました。

このような活動の中で「世界」を舞台に活躍したいと考えようになり、自分の将来像が徐々に鮮明になっていきました。

就活を始めるにあたって、最初は何をしていたかわからず困惑すると思います。なんとなくでもよいので、何かしら行動を起こしてみてください。健闘を祈ります。

いのうえ なほ  
**井上 菜穂** 准教授  
教育支援・国際交流推進機構 学生支援センター 学生相談部門

### 大学生活色々あります

世間では「5月病」の季節ですが、皆さんは大丈夫でしょうか。緊張が張りつめた4月を乗り越え、ゴールデンウィークを過ぎた頃から無気力状態に陥ってしまう「5月病」。最近では5月よりも6月に症状を訴える人が増えていて、「6月病」とも呼ばれるようになってきているようです。ご多分にもれず、鳥取大学でも近年は「6月病」の症状を訴える学生が多く、6月は相談件数が増加する傾向にあります。5月病や6月病は精神的にも身体的にも疲れきってしまった状態です。これらの5月病、6月病に陥らないためには、普段からしっかりとストレスマネジメントを行うことが大切です。まずは食事と睡眠をしっかり摂り、生活リズムを崩さないように気をつけましょう。そして一人の時間には自分の好きなことを精一杯楽しみ、気持ちの切り替えを行うことも大切です。もし周囲に気になる人がいたときには、一度「学生支援センター」をお勧めしてみてください。

## 平成29年度鳥取大学入学式を挙行

2017.4.6



平成29年度鳥取大学入学式をとりぎん文化会館(鳥取市)で挙行しました。今年度は学部1,182名、大学院344名が入学を許可されました。豊島良太 学長は「入学することが到達目標ではなく、旺盛な好奇心を持ち大学で学ぶことにより、変革に適切に対応し、社会で活躍できる人材となる基礎を築くことが大切です。」と新入生に語りかけました。新入生を代表して医学部の谷口莉楓さんが「これから始まる大学生活では、全国からここに集まった友人たちと接することで、さまざまな文化や価値観を知り、自分の視野を広げていきたいと考えています。」と力強く宣誓しました。

また、在学生への優秀学生表彰及び課外活動表彰も併せて行われました。

## 鳥取県「地域協働型インターンシップ」推進フォーラムを開催

2017.3.28



鳥取大学をはじめとする鳥取県内の高等教育機関、産業界、自治体で構成する鳥取県インターンシップ推進協議会は、鳥取市内の会場で、鳥取県「地域協働型インターンシップ」推進フォーラムを開催しました。同協議会は、若者を未来の鳥取を担う人材として育成し、地元定着を図ることを目的に平成27年度に設立したもので、県内の産官学が一丸となって共通プログラム「地域協働型インターンシップ」を実施しています。本フォーラムは、平成28年度の成果報告を兼ねて開催し、企業、学生、学校関係者、行政関係者等が参加しました。基調報告やパネルディスカッションのほか、企業・学生による活動報告が行われました。

## 「鳥取中部地震」学生による支援活動報告会を開催

2017.2.17



昨年発生した鳥取中部地震の際に支援活動に取り組んだ学生が、現地での活動内容や取り組んで感じた想いについて発表し、学生の自己啓発や今後のボランティア活動の推進を図ることを目的とした報告会を開催しました。

まず、日野ボランティア・ネットワーク事務局の森本智喜氏に、学生による支援活動の意義についてご講演いただき、続いて3名の学生がそれぞれ被災地でのボランティア活動について報告を行いました。学生らは「自分たちが学生だからこそできることが多くあった」「大学として継続的に活動をバックアップしてほしい」「地域の方が元気に笑顔になってくれて良かった」といった自分たちの想いを報告しました。



## WHAT'S NEW?



## 大学の動き

在学生の活躍や大学の取り組みなど、鳥取大学の最新情報をご紹介します。



完成動画の1シーン▲▶



## 卒業生が制作した大学紹介動画を公開

2017.4



鳥取大学広報企画室が依頼し、平成29年3月に本学農学部生物資源環境学科を卒業した古屋裕規さんが在学中に動画制作を行いました。古屋さんは、俳優と映画監督を目指し、大学を休学して映画制作を学び、今回は脚本・演出・監督・編集作業を1人で行っています。出演している学生もすべて鳥取大学の学生です。鳥取大学公式YouTubeまたはとりりんfacebookで完成した動画をご覧ください。



<https://youtu.be/DKNVhzYiN5U>

### 【あらすじ】

鳥取大学の卒業生である社長は、ある日、社員から素朴な疑問を問いかけられる。数ある大学の中で、なぜ鳥取大学を選んだのか。そこで社長は、社員とともに鳥取大学内をめぐり、大学の魅力について説明を始めた。その途中、社長は、社員の弟が大学受験で志望大学の選択に迷っているを知る。その時、社長の口から出た言葉とは…。

## 鳥取大学・鳥取銀行連携セミナー「ICT/IoTで地域をつなぐ!」を開催

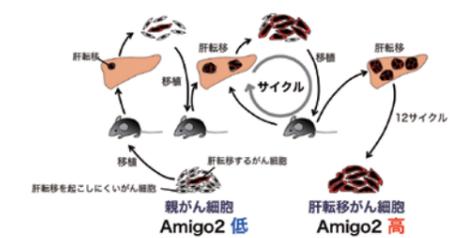
2017.3.9



鳥取大学と株式会社鳥取銀行が連携事業の一環として、産と学のマッチング促進を目的に、平成24年より実施しています。今回は、「ICT (Information and Communication Technologyの略: 情報通信技術)」や「IoT (Internet of Thingsの略: モノのインターネット)」をキーワードに、大学と企業それぞれの視点から、地域と連携した取組事例の紹介を行い、産業界を中心に45名が参加しました。工学部ものづくり教育実践センター三浦政司助教が「ICT/IoT分野の製品開発とシステム設計 ～地域と連携した工学教育の中で～」の演題で講演し、続いて株式会社アクシスの西山修二氏と梶岡大晃氏からは「ICTを活用した地域に根ざした取組のご紹介」と題して、同社の活動をご説明いただきました。

## がん細胞の肝転移を決定するタンパク質の同定に成功

2017.3.8



<http://www.tottori-u.ac.jp/item/14933.htm#ContentPane>

医学部生命科学科(病態生化学)岡田太教授の研究グループが、がん細胞の肝転移のしやすさを決定するタンパク質として、Amigo2を世界に先駆けて明らかにしました。

このAmigo2は、実験動物のがん細胞の肝転移だけでなく、ヒトの胃がんや大腸がんの肝転移に関わることや、これらのがん患者の予後にも密接に関連することを見出し、本研究成果は、2017年3月8日午前10時(現地時間)に英国Nature Publishing Groupのオンライン科学誌「Scientific Reports」に公開されました。今後は、Amigo2に対する抗体医薬や分子標的薬などの開発を通して、がん細胞の肝臓への転移に向けた予防や治療が期待されます。詳細は本学HPにてご確認ください。

# 大学からのお知らせ

INFORMATION

7/22<sup>土</sup>

地域学部 工学部

鳥取キャンパス

7/23<sup>日</sup>

農学部

鳥取キャンパス

7/29<sup>土</sup>

医学部

米子キャンパス

オープンキャンパスを  
開催します！

## 鳥取大学を体験できる絶好の機会！

各学部ごとに内容が異なりますので  
詳細はHPでご確認ください



携帯 <http://daigaku.jp/toridai/>

PC <http://www.admissions.adm.tottori-u.ac.jp>

鳥取大学入学試験情報

検索



2017  
夏



被表彰者

小野 達也  
(地域学部 教授)  
木場 智史  
(医学部 准教授)  
野上 敬材  
(大学院工学研究科 准教授)  
早乙女 梢  
(農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター 准教授)

※組織名・役職は受賞当時のものです。

平成28年度  
鳥取大学  
科学研究  
業績表彰

科学研究業績(権威ある学術雑誌・紀要等に  
掲載されるか又は著書として刊行されたもの)  
が特に優れていた教員を表彰するものです。



被表彰者

【教育功績賞】  
大学教育支援機構学生支援センター、学生部生活支援課  
(代表者：学生支援センター学生相談部門長 井上 菜穂)  
【研究功績賞】  
医学部附属病院次世代高度医療推進センター  
臨床研究支援部門  
(代表者：臨床研究部門長 島田 美樹)  
【社会貢献賞】  
森田 将悟(研究・国際協力部 社会貢献課 主任)  
高間 さとみ(医学部 講師)(たのしいすぎ会)  
雑賀 倫子(医学部 講師)(たのしいすぎ会)  
【功労賞】  
大野 賢一(大学評価室 准教授)

平成28年度  
鳥取大学長  
表彰

鳥取大学の教育・研究・医療・社会貢献の目  
標の実現に向け、特に顕著な業績があった職員  
又はグループに対して学長が表彰するものです。

今冬は33年ぶりの豪雪に見舞われ、たきびしい年明けでしたが、新年度を迎え改組した地域学部、農学部、大学院持続性社会創生科学研究科が新たにスタートし、多くの新入生を迎えることができました。さて、本号では特集として、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業の一環としてスタートした「鳥取県内企業見学シャトル便」の取り組み、昨年度実施した「学生生活実態調査」結果の一部をご紹介しました。後者については詳細を大学ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

前委員長の任期満了に伴い、4月より本誌の編集委員長に就任しました。8年間の委員としての経験はありますが、改めて本誌の役割とその責任の大きさを実感しております。鳥取大学の魅力とその時々を本誌の使命を十分に果たすべく、スタッフ一同努力して参りたいと思っております。忌憚のないご意見・ご感想をお寄せいただけましたら有難く存じます。

(H・Y)

## 編集後記

EDITOR'S NOTE

## Circle Activities

ハンググライダー部は毎週末を活動日として、インストラクターの指示のもと鳥取砂丘や鳥取市河原町の霊石山、和歌山県で練習を行っています。入部して初めのうちは離陸練習として、砂丘でハンググライダーをまっすぐ保持したまま助走したり、滑空時のバランスをとる練習をしたりしています。

そして、砂丘で十分に練習できるとき、実際に空を飛び始めます。早い人は4月に入部して7月には飛べるようになりますが、ほとんどは秋頃になつと飛べるようになります。普段は霊石山でフライトを行うのですが、冬場は雪が降るため練習できないので、11月〜3月は毎週和歌山まで移動して飛びます。



部長

なかむら ひとみ  
中村 仁美さん  
農学部  
生物資源環境学科3年

副部長

はやしざき まさひろ  
林崎 将大さん  
農学部  
生物資源環境学科2年

サークル紹介  
体育会  
ハンググライダー部



砂丘でしっかり離陸練習を重ねてから空を飛び始める。

初心者は10分程度飛ぶことができますが、上級者になると1時間以上飛ぶことができます。風が強いと上級者しか飛べないので、そんな日は下からチャンスを見つと待ちます。長い時間飛ぶためには上昇気流に乗る必要があります。上手いくと、離陸した場所よりも高い場所を飛ぶことができます。初めは飛べたことに対して感動してしまい、景色を見る余裕がありませんが、慣れるととてもきれいな景色を見ることが出来ます。一緒に飛んでいる仲間と手を振り合うこともあり、とても楽しいです。

ハンググライダーは生涯楽しむことができるスポーツであり、これからも楽しく空を飛び続けていきたいです。

※サークル紹介記事は学生広報スタッフが担当しました。

## 学内合同企業説明会を開催

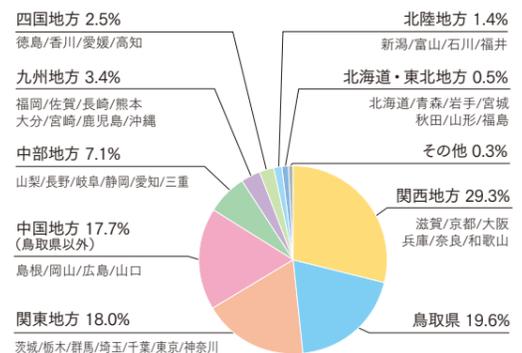
鳥取大学では毎年、就職活動の開始(企業の採用広報解禁)時期に合わせて、学内合同企業説明会を開催し、全国から多くの企業に参加いただいています。今年は3月3日〜5日の3日間開催で、出展企業378社(各日63社、午前と午後で入れ替え)に対して、のべ1,575名の学生が参加しました。



## 卒業生・修了生の就職先地域について

鳥取大学では毎年約1,400名の卒業生・修了生を輩出しており、その多くは民間企業をはじめ、官公庁や医療機関などへ就職しています。ここ数年の就職率(就職希望者数に対する就職者数の割合)は、96%~98%台となっています。

下記のグラフは、平成23年度~27年度に卒業・修了した学生がどの地域に就職しているかの割合を示したものです。最も多い地域は、関西地方が約3割を占め、その次が鳥取県、関東地方、中国地方(鳥取県以外)、中部地方と続いています。



※就職先地域が不明の場合は本社所在地で集計 ※学士及び修士を集計

## 就職情報

JOB HUNTING INFORMATION





読者アンケートにご協力いただいた方へ  
**プレゼントが当たる!**

今後のよりよい誌面作りのために、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で25名様にプレゼントを進呈いたします。

**5名様**

鳥大生と  
企業が連携!  
レトルトカレー

泊総合食品(株)  
キャラクターカレー



学生サークル  
コミックイラスト研究会が  
イラストを描きました!

**20名様**

鳥取大学  
オリジナルグッズ  
3点セット



アンケートのご回答はこちらから

プレゼント応募締切 | 7/14(金)

※ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送以外には使用いたしません。また、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。



大学からのお知らせ

INFORMATION

申込不要  
受講料無料

サイエンス・アカデミーのご案内

日時 毎月第2・第4土曜日 10:30~12:00

会場 鳥取県立図書館 2階 大研修室(鳥取市尚徳町101)

お問い合わせ 鳥取大学研究推進部社会貢献推進課

TEL 0857-31-6777

テーマ コンピュータの可能性

6/10 2017  
土

テーマ  
コンピュータとセンサの融合  
:ITS(高度交通システム)

講師  
工学研究科  
教授 横田 孝義

6/24 2017  
土

人間の知能に迫るパターン認識

工学研究科  
准教授 西山 正志

7/8 2017  
土

身の回りのComputer Vision

工学研究科  
助教 小山田 雄仁

7/22 2017  
土

マンマシン・インターフェイス

工学研究科  
准教授 清水 忠昭

信頼と笑顔

地域に感謝

move your heart

鳥取銀行は、お客さまの明るい未来と活力あふれる地域を創造する銀行を目指します。

共生の里づくり支援事業



鳥取砂丘の清掃活動



鳥取大学「鳥取銀行講座」



ネーミングライツによる地域支援



とりぎんバードスタジアム



とりぎん文化会館

TOTTORI  
BANK



青い鳥の銀行です。

鳥取銀行

風紋のバックナンバーは、こちらから  
www.tottori-u.ac.jp/fumon

鳥取大学広報誌

検索

鳥取大学に関するお問い合わせ

- 入学試験 0857-31-5061
- 研究・産官学連携 0857-31-5608
- 公開講座・社会貢献 0857-31-6777
- 学生・学生生活 0857-31-5053
- 授業料納入 0857-31-5029
- 学生就職支援 0857-31-5456

その他はホームページ [www.tottori-u.ac.jp/ask](http://www.tottori-u.ac.jp/ask) をご覧ください

編集発行 / 広報委員会 広報誌編集専門委員会

2017年5月発行

山下博樹(委員長・地域学部) 筒井宏樹(地域学部) 西村正広(医学部) 塩崎一郎(工学研究科)  
遠藤常嘉(農学部) 滝波稚子(教育支援・国際交流推進機構) 山岸大輔(産学・地域連携推進機構) 西尾瀧雄(総務課)

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 TEL.0857-31-5006 FAX.0857-31-5018  
[E-メール] toridai-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] http://www.tottori-u.ac.jp

\*本誌掲載の写真、図版、記事などの無断複写・転載を禁じます。

表紙題字: 住川英明(地域学部)



鳥取大学  
Tottori University